

資料・統計

2001年放射線治療の概要

Annual Report of Radiotherapy in 2001

斎藤 眞理 植松 孝悦 大井 博之 椎名 真
小田 純一 佐藤 洋子 関 裕史

Mari SAITO, Takayoshi UEMATSU, Hiroyuki OOI,
Makoto SHIINA, Junichi ODA, Yoko SATO and Hiroshi SEKI

2001年の当院放射線科における放射線治療の概要を報告する。

2001年に登録された新患者数は476例であり、このうち悪性腫瘍例は473例、良性疾患は3例であった(表1)。

2000年に登録されたものの年末にかけ治療開始が2001年になった症例が8例、同様に2001年に登録され、治療開始が2002年に持ち越された症例が12例あった。放射線治療について放射線科を受診し登録されたが、何らかの理由で放射線治療が施行されなかった症例は19例であった。

2000年以前に登録され2001年に再発、二次癌などのため放射線治療を受けた症例および2001年に登録され放射線治療が行われた後、2001年のうちに再度放射線治療が行われた症例は延べ144例であった。これらの症例を合計すると2001年に放射線治療をうけた延べ患者数は589例になった。

2001年に登録された症例の原発臓器を表2に示す。肺が最も多く乳腺、食道がこれに続いている。悪性リンパ腫は多数の臓器から発生するので欄外に示した。再掲である。

2000年以前に登録され、再度放射線治療を受けた症例は再発が多いが、二次癌症例も6例あった。二次癌症例が増加しているようである。2001年に放射線の再治療を受けた症例の登録年、原発臓器、2001年の治療部位について示した。二次癌症例について

初回原発部位、第二癌発生部位を示した(表3)。

登録例の多くはリニアックによる外照射で治療されるが、放射線治療の手段として外照射と併用、または単独で密封小線源治療も行っている。表4に密封小線源治療を行った症例を示した。

リニアックについては、1998年から2台が次々に更新され、更新工事が2000年6月に終了、新しい世代の装置になった。2台のリニアックも順調に稼動中である。

2001年は8例のTBIを行った。1週間に半日だけであるが放射線物理士にTBIの線量測定、線量計算をお願いすることができるようになり、TBIの準備にかかる時間が減る傾向にある。

表5、表6に1991年からの放射線治療症例の推移を示した。頭頸部癌、婦人科癌はほとんど増減なく推移している。肺癌が占める割合が最も多いが、2001年は症例数としては減少した。1996年頃からの、乳房温存治療導入による乳癌症例、手術から放射線化学療法に移行する症例が増えている食道癌症例などは横ばい状態である。2001年は泌尿器科領域の治療症例が1991年に比し倍増している。前立腺癌では、以前は骨転移に対する姑息治療が大半を占めていたが、近年前立腺に対する根治照射を行う症例が急速に増加しており、この前立腺癌症例の増加が原因である。

以上2001年の放射線治療の概要を述べた。

表4 密封小線源治療症例数

マイクロセレクトロン HDR ¹⁹² Ir	肺癌	3(10)
	食道癌	5(17)
	婦人科癌	4(13)
	皮膚癌	1(5)
セシウム針 ¹³⁷ Cs	口腔癌	2
ゴールドグレイン ¹⁹⁸ Au	口腔癌	1

()内延べ治療回数

表5 原発臓器別登録患者の推移

	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年
頭頸部	57	50	61	57	61	66	62	80	69	57	66
口腔・鼻・副鼻腔	16	18	18	17	19	22	24	14	16	18	22
咽頭	16	12	12	23	23	14	9	27	25	12	19
喉頭	25	20	31	17	19	30	29	39	28	27	25
消化器	47	68	62	49	75	85	84	86	91	96	82
食道	21	37	35	31	39	57	59	54	65	62	57
胃・腸	12	17	17	13	22	18	17	18	17	18	20
肝・胆・膵	14	14	10	5	14	10	8	14	9	16	5
肺	91	111	119	129	153	137	133	129	134	148	119
乳腺	35	40	47	52	52	112	85	80	95	91	83
女性性器	11	15	16	19	19	14	13	10	16	14	14
泌尿器生殖器	30	23	35	32	31	43	41	47	53	39	60
その他	44	50	39	48	56	58	57	73	50	53	52
計	336	357	379	386	446	515	478	505	508	498	476

表6 密封小線源治療症例数の推移

	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	
ラルストロン ⁶⁰ Co	肺癌	0	0	1	0	2	8	11	7	11	6	3
マイクロセレクトロン HDR	食道癌	2	3	0	1	0	13	9	13	3	3	5
¹⁹² Ir	胆管癌	0	0	0	0	0	4	3	3	0	0	0
	婦人科癌	4	10	9	5	13	7	4	6	5	5	4
	上咽頭癌	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	皮膚癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
セシウム針 ¹³⁷ Cs	舌癌・他	3	2	1	3	1	3	3	1	1	2	2
ゴールドグレイン ¹⁹⁸ Au	口腔底	2	2	2	3	1	2	2	4	0	0	0
	軟口蓋癌	0	1	2	1	1	1	0	0	0	1	1
イリジウムワイヤ ¹⁹² Ir	肺癌	11	16	12	12	19	9	7	1	4	0	0
	胆管癌	1	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0

表1 新患者

2001年新患者	476
悪性腫瘍	473
良性疾患	3
悪性眼球突出症	2
ケロイド	1

表2 原発臓器別症例数

頭頸部	66	女性性器	14
口腔・唾液腺	18		
上咽頭	4	泌尿生殖器	60
中咽頭	4	腎臓・尿管	5
下咽頭	11	膀胱	10
喉頭	25	前立腺	42
鼻・副鼻腔・他	4	陰茎	0
		睪丸	3
消化器	82		
食道	57	白血病	12
胃・腸	20		
肝・胆・膵	5	皮膚・軟部・骨	16
肺	119	甲状腺	5
乳腺	83	その他	19
		悪性リンパ腫	20
		NHL	16
		Hodgikin病	4

表3 再放射線治療症例数・原発臓器・放射線治療部位

登録年	76	80	87	92	93	94	95	96	97	98	99	2000	2001	計
症例数	1	1	2	3	1	3	1	5	4	6	17	41	18	103
病巣数	1	1	2	5	2	3	1	6	4	6	23	56	34	144
原発巣(症例数)		治療部位(病総数)		異時性多発癌										
肺	38	脳	13	第一癌	第一癌発生時期	第二癌								
乳腺	17	肺	7	下咽頭	1994	食道								
頭頸部	8	骨	68	肺	1995	肺								
食道	11	リンパ節	25	肺	1996	肺								
泌尿器	7	その他	31	食道	1996	下咽頭								
その他	22			(悪性眼球突出症)	1996	乳腺								
				喉頭	1999	肺								